

農業における高温・低温環境を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	8~9	本人は、2tトラックにて廃棄用トマトの搬出作業を行っていた。廃棄用トマトを搬出後、トラックの後ろあおりを外して、コンクリート舗装の上の荷台に置こうとした際、路面が凍結していた為あおりと共に前方に転倒し、右手の甲と顎を負傷した。	41	100~299
6	14~15	選果場において、オクラをオクラネットへ詰める作業をしていたところ、気分が悪くなり、ふらついたためその場にしゃがみ込んだ。熱中症との診断を受けた。なお、現場は暑さ対策のため、ミストシャワーを稼働させていた。	40	50~99
7	15~16	樹木の剪定作業中、暑さで体調が悪くなり、汗をかき、うずくまっていたため、日陰に移動し休憩させたが、意識が薄いまま回復しないため、現認者が救急車を呼びそのまま入院に至ったもの。	69	1~9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_11.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html)